

自己紹介を兼ねて・・・(2005年5月)

平成16年4月より岡山産業保健推進センター所長(非常勤)を拝命しております。

石川 紘(いしかわ こう)です。

ホームページでのご挨拶が大変遅くなり失礼致しました。

今回を初回として逐次、センターの活動状況やら調査研究報告などダイジェストとして発信していきたい所存です。何卒、ご一読くださいませ。

私の略歴書

私は昭和14年5月13日に中国東北部(旧満州)最大の都市、瀋陽市(旧奉天市)で生まれました。

当時、父親(故人)が陸軍技術左官で飛行機製造に携わっていた関係で、その転属に従い郷里の富山県を経て、最終的に岡山市で焼け出されて結果的に終戦となり、そのまま居着いたわけです。

と、言うわけで地元の岡山大学を昭和40年に卒業して当時華やかだった産婦人科医になりました。

昭和50年に現在地の倉敷市連島に石川産婦人科を開業し30年が経過しております。

岡山産業保健推進センターとの関わり

平成6年に岡山県医師会理事を拝命し現在に至っております。種々の会務を担当して参りましたが、その中の一つが産業保健でした。

何ぶん本業が産科・婦人科ですので産業医学そのものが目新しく感じ、当時のチーフで後に初代所長として6年間勤められた内田玄桂先生のお手伝いをしながら研鑽を積むことが出来ました。

やがて認定産業医からコンサルタントへと資格を得ることができ、センター発足と同時に産業医学相談員として任命され、その後の6年間は主として「職域女性の健康管理」を担当して参りました。

そして内田所長のご退任の後を受けて平成16年度から所長という重責を担うことになりました。余談ですが内田前所長も本業は産科・婦人科の開業医でしたから産婦人科医が2代続くことになり、その点では全国的にもユニークな人事となったわけです。

所長就任1年間の感想

丁度、独立行政法人への移管初年度にあたり、大幅な機構改変への対応に試行錯誤した一年でした。事務職、相談員の交替がことのほか著しく、諸種事業が後手々に廻り落ち着かない一年でした。

しかし、何と云っても残念だったことは11月開催の第52回日本職業・災害医学会学術大会を共に協力し合いながら盛会裡に納め、学会長を務められ更に当センターの相談員として特に研究事業の中核としてご活躍頂いていた岡山大学公衆衛生学教授の吉良尚平先生が本年3月に急逝されたことが痛恨の極みでした。その損失は計り知れないものがあります。衷心よりご冥福をお祈り致しております。

4月より心機一転、有能な相談員・職員の面々の意見を極力取り入れつつ、事業計画に沿って活動中です。